



ダビデの町 復元 想像図

私たち一行はダビデの町と言われる一角に行きました。ここは東にケデロンの谷、南にベン・ヒノムの谷、背後は城壁になっている、自然の要塞のような斜面に建てられた町の遺跡です。

王(ダビデ)とその兵はエルサレムに向かい、その地の住民のエブス人を攻めようとした。エブス人はダビデが町に入ることはできないと思い、ダビデに言った。…「お前はここに入れまい。」…しかしダビデはシオンの要塞を陥れた。これがダビデの町である。そのとき、ダビデは言った。「エブス人を討とうとする者は皆、水くみのトンネルを通過して町に入り、…討て。」…ダビデはこの要塞に住み、それをダビデの町と呼び、…周囲に城壁を築いた。(サム下 5:6-9)

ダビデはエブス人、またはカナン人が住んでいた町、シオンを落とし、そこをダビデの町としたのです。聖書にありますように、「水汲みのトンネルを通過して」がダビデの町の秘密の一つです。エルサレムは標高 754m にあり、水源はガリラヤ湖、即ちヘルモン山ですが、ダビデの時代には水は、ギホンの泉だけでした。ギホンの泉はケデロンの谷の地下の洞窟にあり、現在も滔々と流れ出ています。ここから水を城内に引くことによって生活できるわけです。



ウォーレンの縦穴

エルサレムの地下の層は石灰岩と苦灰石(白雲石)のカルスト台地で浸食しやすく、ギホンの泉から流れ出す水が、岩石を溶解し、溜池のような穴、いくつかの天然のトンネルを作り出したようです。〈解説 J. N. Wilford〉ダビデは地中の溜池を井戸として水を得、ヒゼキアはトンネルからシロアムの池まで、水を導いて、水を確保したのです。(列下 20:20) 敵から水源を奪われないために様々な工夫をしたことも展示していました。今回私たちは、ダビデの井戸である地下の溜池(ウォーレンの縦穴 1867 年発見)まで下りて見学し、さらにその地下にギホンの泉を見ました。ヒゼキアのトンネル(1897 年発見)は水が流れているので、水の流れていない、カナン人が利用した別のトンネルを通ってみました。整備されていましたが、曲がりくねって約530mの距離がありました。地下の暗闇の中を松明で人々は進んだのでしょうか。



ギホンの泉

ダビデの町は斜面に階段状に作られていますので、バト・シエバの水浴び(サム下11:2)をよく眺められたらとガイドは言いました。また、家臣や重臣がまとまって住んでいたようで、重臣ゲマルヤ(エレミヤ 36:10)など、また神殿に仕えるアザルヤ(歴上9:11)などの名前の粘土の印章も発見されていて、ダビデの町の真正性が高まっています。



シロアムの池



カナン人のトンネル

ダビデの町からの眺めはよく、オリーブ山が見えますが、下方にはヒノムの谷があり、忌み嫌われた場所のようです。重い皮膚病の病人もここに住んだと言われています。現在は谷を駆け上って、アラブ人の家がぎっしり建っています。シロアムの池を出た所に、横穴の墓がくり抜かれていました。ダビデの墓はこちらにあったのではないかと想像されています。